

公表

児童発達支援 事業所における自己評価総括表

○事業所名	のぞみ発達支援室うしく		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 6日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>〈外出活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所周辺に歩いて行ける運動広場や公園があり、体力強化、集団移動指導、社会性を育てる等、体を動かしながら多くの学びが得られる。 ・小湊鉄道を利用して、電車に乗る時のマナー等の社会性を育てたり、活動範囲が広がることで、いつもとは違う場所で楽しめる。また、近隣の商業施設に行くことで、お買い物学習ができ、そこから、調理活動につなげられることができる。 	<p>目的地へ指導者や友達と手をつないで歩く際、相手を意識して歩いたり、車に気を付けて歩いたり等、その都度、子どもに言葉かけをして、集団移動がスムーズにできるように、心がけている。</p> <p>事前に、電車に乗る時や商業施設に行く際のマナーについて、一人ひとりに合った伝え方(絵カードやマカトサイン等)を心がけている。</p>	<p>活動の場を広げ、地域の探索をしていくことで、地域の交流の機会を設けていく。</p>
2	<p>〈保護者との子どもに対する共通理解〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの送迎の際、直接、保護者と話す機会が多く、子どもの健康や発達の状況を常に情報共有できる。 	<p>子どもの発達についての相談や家族間の困り事等、迅速に対応すること、的確なアドバイスができるように、心がけている。</p>	<p>子どもや家族が、日々の生活の中で、困っていることへのサポートが十分にできるよう、他機関や幼稚園、保育所との連携と職員の技術向上等に努めていく。</p>
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>〈子どもの支援と安全の確保〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が休んだ時の対応はしているものの、安全面に十分な配慮が行きとどかない場合がある。 	<p>職員同士の連携がうまくとれていない。</p>	<p>子どもの特性に合わせた対応の仕方や環境配慮等の留意点を、職員同士できちんと確認し合い、連携をとるようにする。</p>
2	<p>〈安全計画についての周知不足〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と子どもの安全について、事業所で作成した安全計画の連絡が不十分である。 	<p>職員間での安全を確保する計画の周知と共に保護者にも伝える時間を十分に設けていない。</p>	<p>職員間では、安全計画を定期的に見直すことで、迅速な対応につなげていく。また、保護者には事業所で作成した安全計画を定期的伝えていき、周知してもらえようようにしていく。</p>
3			